

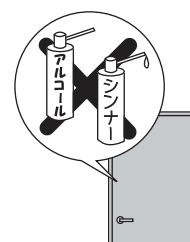
## お手入れ方法

## □ ドア

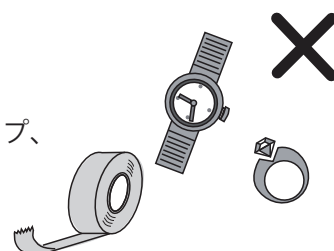
- お手入れの際は、ガーゼやネルのようなやわらかい乾いた布や、ピアノ用の毛ばたきで軽く拭いてください。
- クレンザー、メラミンスポンジは木製品の表面に傷をつけるため使用しないでください。
- 化学ぞうきんは、油分がシミ等の原因になりますので、ご使用はお避けください。



- 落ちにくい汚れは中性洗剤をぬるま湯（約40℃）で薄めて（薄めの度合いは使用する洗剤メーカーの使用書に従う）拭き落とし、すぐに水拭きをして洗剤は完全に落してください。
- 木製品は水分を嫌いますので、湿ったり濡れた状態にしないでください。
- 洗剤などをきれいに拭き取らないと、化学反応により変色を早める原因になりますのでご注意ください。
- シンナー、アルコール、トルエン等の揮発性有機化合物で拭かないでください。
- カビが発生した場合は薄めた消毒液用エタノールを浸した布を、水が滴らない程度に絞り拭き取ると殺菌効果があります。ただし、付けすぎますと表面の変色が起こる可能性がありますのでご注意ください。



- お手入れの際には指輪や時計等の金属製品の装飾品は外してください。表面に接触して傷をつける恐れがあります。
- 表面の剥離や接着剤残りが発生する可能性がありますので、セロテープやガムテープ、シール等を貼らないでください。



## □ 金物

- 金物は通常はやわらかい布で乾拭きで充分ですが、汚れが目立つ場合は中性洗剤を水で薄め布に浸し、水が滴らない程度に絞ってから拭き取り、その後洗剤が残らないように十分に乾拭きしてください。
- 酸性・アルカリ性の洗剤や、シンナー・ベンジンなどの揮発性有機化合物は使用しないでください。変色や腐食に繋がる恐れがあります。誤って付着してしまった場合は直ちに水を含ませた布で拭き取ってください。
- 金物に汚れが付いたり埃が溜まると、機能が劣化する恐れがあります。定期的なお手入れをお願いします。
- 雨水等、濡れた状態でそのまま放置せず、必ず柔らかい布等で拭き取ってください。
- 金物に指輪等、固いものをぶつけたりしますと、塗装膜などの保護層が剥がれ変色を早める原因となります。いつまでも美しくお使いいただくためにご注意ください。



## 安全に関するご注意

### □開戸

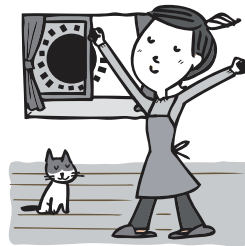


製品を正しく使用いただくための注意事項です。

正しい使用をされない場合、製品上・安全上の問題が発生する可能性があります。必ずお守りいただくようお願いします。

- 本製品は木製品です。木製品は空気中の水分を吸排出する性質を持つため、著しい温度変化や湿度変化があった場合に膨張収縮を起こし、反りやねじれが生じる可能性があります。恒常的な多湿・乾燥状態及び、著しい高温・低温状態にならないよう住環境の調節をお願いします。

また、室内の空気循環も心掛けていただけるようお願いいたします。



- クーラーやストーブなどの空調機器の風を直接長時間当てると、製品が変形することがあります。白熱灯などの熱を持つ照明機器は著しく近い場所に設置しないでください。熱により変形・変色することがあります。

- 扉や枠の隙間に手や指を入れたまま開閉しないでください。ケガに繋がる恐れがあります。特に乳幼児に開閉をさせたり、乳幼児が近くにいるときの開閉には十分で注意いただくようお願いいたします。



- 扉は取手を持って操作してください。取手以外の部分を持って操作すると指挟みのケガや製品破損に繋がる恐れがあります。



- 扉や取手にぶら下がったり、扉にもたれ掛からないようにしてください。破損や扉脱落の可能性があり、ケガに繋がる恐れがあります。

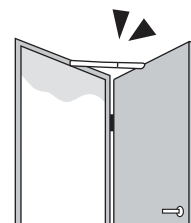
- 製品の作動性が悪くなった場合、無理に作動させようとすると金物の破損や扉脱落の可能性があり、ケガに繋がる恐れがあります。無理に開閉させず専門の業者にお問い合わせください。

- 性能に支障をきたすような改造・加工はしないでください。

破損や事故の原因になる恐れがあります。



- 突風により扉が強く閉まると、衝撃により扉本体やガラスが破損する可能性があります。ケガに繋がる恐れがあります。建築物の高層階など、突風の懸念がある箇所へで使用される場合は、ドアストッパーなどの動作を制限する金物の併用をお勧めします。



- ドアストッパー付の扉は、無理な力で開閉しないようにしてください。破損の原因になります。